

# shitsurai

「しっらい」

特集

文化100年！

文化学園大学の  
生活造形教育を振り返る



10

vol.10 2024

文化・住環境学研究所報

## 第 10 号発刊に寄せて

この 4 月に社会人 3 年目を迎える長女が小学校に入学し初めての夏休みを迎えたときである。「自由研究、どうしようかなあ」と言ってきた。えっ、まだ自由研究って小学校にあるんだ！ と、私は思わず叫んだ。詰込教育の反動からそういうものは一掃されたと思っていたが、どっこい生き残っていたのである。自由に研究ができる！ いやしていい！ 一応、研究畑を歩いてきた私であるが「自由研究」という響きに非常に興奮したのである。研究とはそもそも自由ということをも日本中に定着させたいネーミングである。色々な国の小学校に「夏休みの自由研究」を教育方法の一つとして紹介してもいいのでは、とさえ思う。

「さて、何やろうか?」。父はやる気満々、娘は（若干）引き気味であったがそこはさておき「どうする? 何かつくりたいもの、ある?」と畳みかけて彼女に質問。そして出来上がったのが「3 階建てのおしゃれなレストラン」であった。高さ約 50cm、幅と奥行が約 30cm。どうみても小学校 1 年生が（自力で）つくったとは思えない作品……。あららとは思ったが、娘は嬉々として喜んでいる。「ねえ、お母さん。このテーブル、かわいいでしょ。私が色を塗ったんだよ〜」そう、娘は色を担当……。最初がこの調子だったので、その後、我が家では一番下の子どもが小学校を卒業するまでの約 15 年間、夏休みの自由研究といえば、父と子の合作となるのでした。そう、子どもの「自由な造形」の機会を半分奪ったのは私です。そして誰一人、その後「造形」への道へ進むことはなく……。私の不徳、いや単にやりたがりの私を家族が暖かく見守ってくれていたのでしょうか。感謝。

改めまして、こんにちは。所長の高橋です。文化・住環境学研究所は文化学園大学の付属の研究機関です。2004 年に住環境をめぐる研究を推進するために設立されました。研究所の名称にある「住環境」とは、「住」をとりまく自然・文化・社会環境の意味も含みます。このため、研究所の活動もいわゆる「住まい」のみならず、人間の生活行動を包摂する文化や環境を含めたもの、すなわち生活環境を対象としています。つまり、異なる領域を横断する学際的な研究を重視している点が特徴です。

現在研究所では、生活の質の向上ならびに造形教育手法の開発をテーマとして、学内外の研究者による共同研究を推進するとともに、若手教員による研究活動の活性化を支援しています。これらの研究成果は、各種学会での発表のほか、隔年で発行する研究所報『しつらい』に掲載し、広く社会に公開し還元しています。

この度、『しつらい』第 10 号を発刊する運びとなりました。本号には 2021 年度から 2022 年度までの研究所の活動内容がまとめられています。また創刊以来、各号において生活環境を見つめ直す多様なテーマを設定し、これに関連する本学教員や外部識者による懇談等を「特集」として紹介しております。

文化学園は 2023 年に創立 100 周年を迎えました。本号の特集のテーマは「文化 100 年! 文化学園大学の生活造形教育を振り返る」です。本学卒業生であり教員として教育に携わってきた方をお招きし、座談会形式でこれからの教育についてベテラン教員と若手教員からお伺いしました。キーワードは「生活造形」です。本学の「生活造形」教育のはじまりと未来についてお話を聞くことができました。

『しつらい』第 10 号に掲載いたしました特集及び研究活動報告に、皆様のご意見ご感想をお寄せいただけましたら幸いです。より豊かな生活環境づくりに向けての更なる研究を深める場として、本研究所の活動に、今後ともご指導とお力添えをくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 目次

1 第10号発刊に寄せて 高橋正樹

---

## 特集

文化100年！  
文化学園大学の生活造形教育を振り返る

4 座談会 卒業生教員ベテラン編  
佐藤百合子×長山洋子×押山元子×丸茂みゆき×渡邊秀俊

10 座談会 卒業生教員若手編  
渡邊裕子×山崎裕子×藤澤英恵×遠藤 樹

---

## 研究 助成 報告

14 1 3DCGツールを用いたファッションデザインのためのツール開発・作品制作③④  
(2022-2023年度)  
牧野 昇(メディア・映像研究室) 村上剛規・加藤淳之介(国際ファッション研究室)  
柚本 玲(機能デザイン学研究室)

16 2 アニメーション・ワークショップの実施環境と教材の研究(2021-2022年度)  
屋間行雄・荒井知恵(メディア・映像研究室)

18 3 戦後の建築・都市・生活環境を聞く／見る／書く  
一戦後日本における建築文化の創造過程とその背景に関する研究一(2021-2022年度)  
種田元晴(建築・インテリア研究室)

20 4 国宝重要文化財建造物における彩色技術と手法に関する研究(2022年度)  
鳥海 薫・大関 徹・七里真代(造形・色彩学研究室) 嘉松 聡(絵画研究室)

---

21 所員の主な活動一覧

30 編集後記 牧野 昇

特集

# 文化100年!

## 文化学園大学の生活造形教育を振り返る

文化学園創立100周年の節目を迎えた2023年。本学造形学部卒業生であり教員として教育に携わってきた教員陣を集めて座談会を開催。「生活造形」をキーワードに学生時代を振り返りながらこれからの教育についてベテラン教員陣と若手教員陣に語っていただきました。

Photo：岡本大祐 Text&Edit：深田雅子

### <本学の造形教育に関わる歴史>

- 1923 文化裁縫女学校創立
- 1950 文化女子短期大学開学
- 1964 文化女子大学開学
- 1965 短期大学部に生活造形学科設置
- 1966 大学に生活造形学科設置
- 2000 生活造形学科と住環境学科に分離
- 2010 住環境学科を建築・  
インテリア学科に名称変更
- 2011 大学名を文化学園大学に変更
- 2012 男女共学化
- 2014 生活造形学科をデザイン・  
造形学科に名称変更



ベテラン  
編

**渡邊秀俊**  
文化学園大学教授、  
造形学部長

### 1 ご自身が学生時代に受けた 教育について教えてください



**佐藤百合子**  
元文化学園大学教授  
1974年家政学部生活造形  
学科入学、1978年同学科染  
色コース卒業、78年から常  
勤助手、44年間勤務したの  
ち2022年より非常勤講師と  
して勤務

**押山**：当時は造形と建築は同じ生活造形学科でした。2年生では染め、織り、金工、陶芸の中から2つ履修できました。3年生でテキスタイルデザインコースとインテリアデザインコースに進むには、1年次の選択科目で関連する授業を習得する必要がありました。

**丸茂**：押山先生と私の間でも変わっているかもしれませんね。私は金工と工芸デザインを履修しました。

**佐藤**：私は染めと織りを履修し、陶芸クラブにも入っていました。染め・織り・金工・陶芸を目指す人たちは2年生から学ぶことができました。

**押山**：私は金工と織りを履修しました。インテリアの授業も習得していてコースに進める資格はあったけれど、金工を選びました。1970年代当時は若い女性たちにインテリアが人気で、コースに進むのは狭き門でした。インテリアをやりたくて入学しても1年生でインテリアの単位を落として諦める人も多かったです。

**長山**：私は金工と陶工かな。私が学んだ当時はインテリアデザインコース初年度で、コース人数は13人。担任の先生は4年間一緒でした。インテリアデザインコースに進むために1年次に「設計

製図」と「室内装飾実習」を履修しました。

**渡邊**：主専攻と副専攻のような仕組みになっていたんですね。

**丸茂**：そう、だから異なる分野の実習を3つくらい同時に学んでいました。

**長山**：目指すコースだけでなく幅広い分野を学べることは面白かったですね。

**丸茂**：金工の授業で厚みのある金属で指輪を作ったときに「素材を使いなさい」「この厚みを生かしたデザインをどうするかが大事」と言われたことは今も印象に残っています。

**押山**：自分は専攻していなくても、他専攻に友達がいるので自分が所属していない実習室や研究室に今よりも顔を出しやすく、友達の作業風景をよく見ていましたね。

**渡邊**：短期大学部に生活造形学科が設置されたのが1965年、翌年に大学の家政学部生活造形学科が設置されました。短大に進学する人が多かった時代でしたよね。

**押山**：短大と大学が使う教室は同じで、指導する先生も同じ、教室は常に満杯でしたよ。

**佐藤**：大学が一学年2・3クラスの時代に、短大は生活造形学科だけで一学年6クラスありましたね。



**長山洋子**  
元文化学園大学教授  
1971年家政学部生活造形  
学科入学、1975年同学科  
インテリアデザインコース  
卒業、75年から常勤助手、  
2018年3月退職



## 2 他分野の学びがどのような影響を与えましたか

**佐藤**：在学時は染めと織りを履修し、教員になったのちに染色と織物の研究室が統合したので両方の学びが役立ちました。染めを選んだ理由は染色を知りたかったからです。染色は奥が深くて趣味感覚でできない。今も探求を続けています。でも実は一番苦手だったのが染色だったんです。織物をやりたくて入学したのですが、なぜか一番苦手な染色に進みました。当時は工芸ブームで織物をやるのがカッコイイという風潮でした。高校生の時に雑誌『装苑』で文化の夏季公開講座の宣伝を目にして陶芸の講座に参加しました。そのとき外で生地を張って染めている人を見かけてなんて面白い学校だろうと。元々ファッションにも興味があったので、ファッションが身近にあることも魅力でした。

**押山**：私は金工をやりたいという気持ちと、親が建築をやっていたのでインテリアにも興味がありました。授業を受けて

みて素材に魅了されすぐ形が見える金工を選びました。金工で作るものは住空間に関わるものなのでインテリアを学んだことは良かったと思います。他の分野をやってみたからこそ、自分が好きな分野を確認することができました。

**長山**：私は入学当初からインテリアデザインコースを目指していて、テキスタイルデザインコースとも迷いましたが初心を貫きました。

**丸茂**：私も入学当初からインテリアデザインコースに入りたいと思っていました。入学して色々学んでみたら楽しくて迷いました。基礎造形の授業で配合しながら色を生み出す作業はインテリアの分野にも参考になりましたし、金工の素材を生かした形を探究することも勉強になりました。

**渡邊**：当時の生活造形学科は家政学部の中にあっただので、服装の授業も履修できたんですね。

**丸茂**：「被服学」を履修していました。文化に入学したからには、服装の授業も学ぼうと思いました。



**押山元子**

文化学園大学教授  
1976年造形学部生活造形学科入学、1980年同学科金工コース卒業、一年間のアルバイトを経て1982年から常勤助手～現在に至る



**丸茂みゆき**

文化学園大学教授  
1982年家政学部生活造形学科入学、1986年同学科インテリアデザインコース卒業、1988年非常勤助手、1989年常勤助手～現在に至る



**押山**：当時は美術と工芸の教職課程も取れましたね。

**佐藤**：教職課程は80%くらいの学生が取っていましたよ。習得するのが当たり前でした。女性が大学に進学するのは教職課程が取れるからという理由が多い時代でした。他分野の学びを見てから一つに絞ることが大切だと思います。一つの分野を極めると他の分野も必要であることが見えてくる気がします。

### 3 本学らしい課題の特徴や 指導方針について教えてください

**佐藤**：私の恩師である北川有三先生は型絵染の人間国宝である稲垣稔次郎氏の実弟でした。お二人は陶芸家で人間国宝である富本憲吉氏が唱えた「模様から模様を作るべからず」を理念としていました。人が作った模様ではなく、デッサンから全てが始まるという教えは今も大事にしている基本理念です。

**押山**：中田満雄先生の授業も印象的で「生活に関わる物作りをする」という理念が強く、学生もそれを受け継いでいました。生活を意識しながら自分なりに物作りをしていく姿勢は今の学生も同じだと思います。作品を作るときに「より芸術的に、個性的に」と高い完成度を求

めてしまいますが、学生の本心は「自分達が使いやすいものを作りたい」だと思います。今も昔も中田先生の生活造形の理念が心に刺さり、生活の中で使えるものをデザインしたいと考える学生が圧倒的に多いです。大西甚平先生は大変ユニークな先生でした。何より物作りが楽しいことを教えてくださいました。でするので私も最終的には物作りが楽しかったという気持ちで卒業してもらいたいと思っています。

**長山**：内井乃生先生は今和次郎氏の生活学から教育理念を持っていました。「インテリアは暮らしに根ざしている」と強くおっしゃっていました。「良い空間を体験しなさい」「上質なものを見て知って自分の中で昇華しなさい」と教わりました。暮らしがあってこそそのインテリアであることを学生にも伝えていきたいです。

**丸茂**：内井先生の授業ではカーテンの市場調査をするために一人で16箇所のショールームを見て回りました。現在のようにインターネットがないのでパンフレットを切り貼りしてまとめました。そうした経験から自分の授業でも市場調査と課題はセットにして、社会の動きを見た上で「なぜこのデザインにするのか」を自問自答させています。

**渡邊**：当時から新宿にはショールームがたくさんありましたね。都心立地を生かした課題を展開していたんですね。

**長山**：ほかにも内井先生はファッションもインテリアだと捉え、服装系にも視野を広げていくことを学びました。インテリアの知識だけではできない課題は他分野の先生に相談に行きました。特別講義でその時代の名だたる専門家にお越しいただき一流の話聞く機会もあ

りました。ディスプレイ実習のように実寸のものを施工して作る授業も貴重な体験でした。

**丸茂**：産学連携授業はなくコンテストの情報も少なかったので学内で一生懸命活動していましたが、今は学校の中だけに止まらず学外の活動にも積極的に参加していくように促しています。その代わりに学内イベントは少なくなってきた印象です。でもグループ課題に得手不得手があり葛藤している姿は今も昔も変わりません。

**押山**：ちなみに卒業研究展は染色一期生の有志学生たちが始めました。当時は会場の設営、作品の運搬も全て学生が主体的に行っていました。学生が参加費を徴収して開催し先生たちを招待していました。その後大学の協力を得て会場は大学に移りました。自主的に行われた時代を経て大学行事となりました。



#### 4 時代の変化や学科の変遷に

##### 合わせて変えてきたことはありますか

**丸茂**：当時は自分たちで手を動かして描く表現でしたが、今はCADなどPCが主流になってきたので小さい画面の中で完結する課題に変わっています。効率は上がりましたが、長いスパンの課題に学生のモチベーションや興味が耐えられなくなってきたので、課題のスパンを短くしながら質を上げていくことを意識しています。

**佐藤**：時代の変化により学校の方針がファッションの素材としてのテキスタイルにシフトしていきました。作品よりも用のためを目指すようになり、多くのことを教えるようになりました。たくさんのことを教えると一つ一つの学びが希薄になります。広くは学べるけれどある程度のレベルまで到達できない。そこで最近では、短い時間でもちょっと質の高いものを作らせようと公募展に出品することを目標に、展示できる作品作りに取り組みさせています。

**押山**：金工では金属を扱う基礎的な技術を教え、将来的に幅広い分野に役立つことを教えています。全ての技法を網羅するのではなく、気に入った技法・分野を選べるようにカリキュラムを組んでいます。卒業後の進路が変わってきているのでCADやグラフィック、映像などのスキルも必要で、それらの学びも並行して学べれば良いと思っています。卒業生や働く現場の声も取り入れ必要なスキルを教えています。

**長山**：CADを導入してから学生が変化したと思います。導入した当初は手描きができなければCADを使ってもダメだろう



と聞いていましたが、今やVR、メタバースなども取り入れる大学もあります。そうした新しい技術を避けては通れないので、若い人たちはどう使いこなすかといった判断力、豊富な実体験に伴った知識が必要だと思います。的確な判断力がなければデザインはできません。本学に根づく他分野の知識も取り入れながら教育できると良いと思います。

**押山**：今は情報が多すぎてインターネットで検索もできるので、経験した気になっているだけで実は全然実体験しておらず、感動体験が足りないと思います。

**丸茂**：私も学生を連れてショールームを訪れた際に、事前にネットで調べた時の感想と見学後の感想を書かせたら全然違いました。見学時間が足りなくなるくらい感動した体験になりました。

**押山**：ネットで済ませてしまっている学生はそれ以上の成長は難しいですね。



## 5 共学化したことで変化はありましたか

**長山**：留学生も含め男女関係なく幅広い学生が入学してきて、色々なことを共に学べるのが有意義になったと思います。

**押山**：良い影響はあったと思います。持っている感性が違うところが面白いです。男子学生はCADなど機械操作が得意な学生が多いです。制作において打ち込める学生は男女関係ありません。

**丸茂**：データを丁寧に調べ整えたり、細かい作業に熱心に取り組んだりするのは女子学生が多いと感じます。一方で男子学生は判断力が高いところが良いですね。女子大の頃はハウスメーカーやショールームが主な就職先でしたが、共学化してからはマンションデベロッパーや建設会社、施工管理などの会社からも求人情報が来るようになりました。

**押山**：女子学生は自分がやりたいことを続けたいと考える学生が多く、男子学生は給与や生活のことを考えて転職するケースがあります。能力の高い学生はステップアップしながらジュエリー制作や金工を続けています。

**丸茂**：建築・インテリア学科では建築指向で資格を取りたい学生と、インテリアやデザインを重視した彩豊かな生活を提案したい学生の二つに意識がわかれてきました。インテリアに興味がないなど極端な学生もいます。

**長山**：学生の思考が二つに分かれていることは良いことで、互いに刺激しあいながら興味のある方を突き詰めていけるということが本学の特徴でもあると思います。



## 6 生活造形学科からデザイン・造形学科と建築・インテリア学科に変わったことについて

**押山：**世の中の流れが変わったことに起因します。変更した当時は、家庭や生活という言葉に対して古いという印象があったので、デザインという言葉を入れなければ大学名が検索に引っかからないという理由もありました。つまり今の時代に合わせた言葉が選ばれました。しかし、生活造形学科の理念は変えず学位も「生活造形学」を残しています。今も「生活に根ざしたものづくりをする」というフレーズを見て学生たちが本学を志望していると思います。

**佐藤：**中田先生もよく「質の高い暮らしのための造形」とおっしゃっていましたね。

**押山：**中田先生はデザインのご出身なので、ファッションや工芸も建築もデザインの中の一つでありデザインを通して世の中を良くしたいというお考えをお持ちでした。

**長山：**「用の美」という言葉は忘れられないですね。

## 7 これからの本学の教育について期待することを教えてください

**佐藤：**染織は場所や設備が必要で、続けたくても卒業とともに環境がなくなってしまう人が多いのが現状です。そうした人たちが集まれる場になれば私の工房を提供しています。手仕事を愛したかつての本学の良いところを残していきたいと思っています。

**押山：**本学の学生の特徴として幅広くチャレンジしたい学生が多いので、他学部・他学科の知識を広げることも良いと思います。今は自分の専攻だけをやる時代ではないと思います。これからの学生には自分の専攻だけでなく、学びに広がりを持たせることが必要だと思います。

**長山：**今はITの知識などが必需品ですが、PC画面の中だけでなく色々な体験をして欲しいです。暮らしに根ざした実体験を吸収し、的確に判断するための背景を大学で掴んで欲しいと思います。

**丸茂：**建築・インテリアは人や社会のためにあるものです。今の学生は人そのものに興味が薄い気がしていて、もしかしたら自分についても分析していないのかもしれない。それが出来ないと社会との繋がりが生まれず、建物・インテリアも提案できないので、人と自分への関心を高めて建築とインテリアの中に生活を意識してもらいたいです。

# 若手編

卒業生  
教員

座談会当日は  
学生会主催の  
「ドレスコードDAY」!  
テーマカラーの  
REDコーデで  
お集まり  
いただきました。



渡邊裕子

文化学園大学教授  
1989年家政学部生活造形  
学科入学、1993年同学科イ  
ンテリアデザインコース卒  
業、1996年副手、建築設計  
事務所勤務を経て2002年  
専任講師～現在に至る

## 1 入学の動機を聞かせてください

**藤澤**：本学附属長野高校在学当時から大学には何度か足を運んでいて、ジュエリーが学べることやモノづくりに興味を持っていて進学を決めました。

**山崎**：私は姉が本学で立体造形を学んでいました。文化祭に来ることもあり、とにかく学んでいる姿が楽しそうで。物作りや洋服を作っていたこともあり進学を決めました。大叔母も本学短大卒で我が家で文化は身近な大学でした。

**渡邊**：私は幼少期から建築がすごく好きで、レゴで遊んだり砂場に行ったら何か作ったりとにかく建築のことがずっとやりたかった。けれど学校の勉強は大嫌いでした。工学部の建築系に進むには物理が必要だと言われたのですが、あまり好きになれず理系大学への進学は諦めました。そんな時に文化で建築に近い分野であるインテリアを学べることを知って入学を決めました。その当時は美術系大学に建築があるなんて知らなかったですね。妹も文化に入りました。

**遠藤**：僕は今は織物をやっていますけれど、高校時代は理系大学を目指していました。ところが受験勉強に疲弊し、自身の目的と進路を改めて自問自答し始めた時期に本学を偶然知りました。興味が抑えられずに翌日に訪問して気に入って入学

を決めました。建築分野を志望していましたが、物を作るという原点に立ち返りデザインを広く学べるデザイン・造形学科に入学し、3年次からのコース選択では食い扶持がありそうな分野と考えたテキスタイルに進みました。本当に人生何があるかわからないですね。

## 2 学生時代、大学への印象や印象的だった課題はありますか

**藤澤**：学生時代の作品で印象的だったものは今も大切にとってあります。テーブルウェアや、一枚の銀板から制作した立体的なブローチなどです。

**山崎**：2年生の基礎実習では金工の課題も体験しました。すり出し指輪、キャンドルオーナメントを作りました。

**渡邊**：私が在学時は1・2年次に分野を2つ選べたので、インテリアと織物を選びましたが、製図って細かい線を描く作業だから友人たちはインテリアの課題に関心が持てず織物に進みました。私はインテリア以外考えていなかったですね。

**遠藤**：僕は入学してみても奇抜なビジュアルの学生が多いことに圧倒されて、大学の固定概念がいい意味で崩されました。



山崎裕子

文化学園大学准教授  
2000年造形学部生活造形  
学科入学。2004年同学科グ  
ラフィック・プロダクトデザ  
インコース卒業、2006年大  
学院修了、家具メーカー勤  
務を経て2008年助手～現  
在に至る

### 3 今と昔で教育の違い、 学生の変化は感じますか。

**遠藤**：今の学生は僕が学生の頃よりも浅く広く、幅広いデザインを求めている印象があります。やりたいことを探すために大学で学ぶ学生が増えた気がします。

**山崎**：私は造形学部の一期生なので、家政学部でなく造形学部で入学できたことはモノづくりをする立場からすると誇らしく思います。生活造形学科からデザイン・造形学科に学科名が変わったときに、デザイナー志望のプロ志向の学生が多く集まるのかなと思っていましたが、結果そうでもなかったと思います。文化生の良いところは自分視点で面白いアイデアを生み出すところです。学生の気質は淡白になっている印象がありますね。

**渡邊**：コロナ禍の4年間でだいぶ変わり

ましたね。そのまま変わっていくのか元に戻るのか。

**藤澤**：地方出身の学生が少なくなっている印象もあります。

**渡邊**：湘南新宿ラインの開通など、遠方から通いやすくなったので、地方がどこまでか、という感覚も変わっているかもしれませんね。埼玉など東京近郊から通う学生は多いですね。

**藤澤**：本学に戻ってきたときにコース名や編成が大きく変わっていて驚きました。私が在籍していた当時は工芸コース金工専攻で、その後ジュエリー・メタルワークになり、現在のジュエリーメタルデザインに変更される時に各コース名称をデザインに統一しようという話もあったと聞いています。

**渡邊**：コースを増やすと希望するコースに学生が配属されるのが難しくなること



**藤澤英恵**

文化学園大学助教  
2003年造形学部生活造形学科入学、2007年同学科工芸コース金工専攻卒業、多摩美術大学大学院、宝石を扱う貿易会社に勤務、多摩美術大学助手を経て2019年助教～現在に至る



**遠藤樹**

文化学園大学助手  
2013年造形学部生活造形学科入学、2017年同学科テキスタイルワークコース卒業、アパレル小物メーカー勤務を経て2020年助手～現在に至る





もあり、建築・インテリア学科は現在2コースに落ち着きました。コース分けて悩む学生は多いけれど、業界ではインテリアと建築の境界は曖昧になってきていて、一生学び続ける分野だから「どちらから学び始めるか」を判断材料の一つとして伝えています。私が進学を決めた当時は、周辺領域の彩の良さが本学の魅力の一つだったので、今のように専門が学科で分かれていたら入学していたかどうか分からないかな。当時は希望のコースに進めなくてもまあいいかと思えるほど多様で魅力的な専門領域がありました。

**遠藤：**先輩方に聞いた話では、以前は染めと織りの専攻が別々だったそうです。今は同じ授業で染めと織りを両方やれるので、同じ分野でも学び方に変化があり



ます。そこから興味の種が生まれて他の制作に繋がるので、得意なジャンルを見つけられると思います。

**山崎：**グラフィックとプロダクトも本来は大きく異なりますが、学生の指向はパッケージデザインなどの軽プロダクトに向いています。最近の授業ではグラフィックを立体化したものを扱っています。

**藤澤：**ジュエリーでは「打ち込み象嵌」という純銀しやくどうに赤銅を打ち込んで一枚の板にする課題をやっています。他大での実施例が少ない本格的な伝統技法の課題です。コース名に関して「ジュエリー」と「メタル」を掲げていますが、学生からは「ジュエリーしか作らないのでは」と勘違いされることもあります。照明器具、時計、カトラリーなどの生活雑貨も課題に取り入れ、ジュエリーもメタルも偏りのないように意識して指導しています。

#### 4 今、大学に必要とを感じるものはありますか

**渡邊：**造形学部共通の工房です。学生たちが自主的に作業できる場所が欲しいですね。教員の管理下ではなく、友人たちと学ぶことで成長を見つけていけるような場所です。2023年放送の建築学科が舞台の某ドラマでは、有志の学生がコンペに参加するために自由に部屋を使って作業をしていました。学生の自主性を育てるためにそうした環境を提供したいと思っています。

**遠藤：**今は授業外で学生同士・先輩後輩の交流が生まれにくいのも課題だと思います。自由な創作の場があればその点も解決できそうですね。



**渡邊：**先輩後輩をただ会わせても交流は生まれにくいから、共同することで刺激を受けたり新たなアイデアが沸いたり、高めあう場が欲しいですね。専任教員は学術的なことを指導する立場なので、創作の場にはベテランの実務者や技術員の先生みたいな人がいて技術的なサポートをしてくれることも理想です。

**遠藤：**あわせて、もっと気軽に作品を見せ合える雰囲気を整えたいです。授業ではお互いの作品を見る講評会が一番刺激になります。学生間の交流を深めることで創作意欲が沸くと思います。それから趣味で学ぶことと大学で学ぶことの違いを学生に理解させたいです。既存のものを再現するだけでなく、新しいものを作る表現の楽しさも伝えたいですね。

**山崎：**私も工房はずっと欲しいと思っています。今はYouTubeを活用して表現方法やツールの面白い使い方を調べて学生同士で共有しています。その使い方がクラス全体に広がって流行ることもあります。学生が自由に学び、失敗もたくさん経験して欲しいと思っています。それと同時に道具に愛情を持つ、自分たちの居場所を大事にする気持ちも育てて欲しいです。

## 5 「生活造形」という伝統、言葉にどのような印象を持ちますか

**渡邊：**「生活造形」という言葉自体は良いと思っています。でも生活者の視点って何？ 生活って学問なのかという疑問も同時に感じています。

**遠藤：**僕も身近な生活にないモノ・コトを学びに来ているのに、「生活」という言葉に違和感は感じました。しかし入学して学んでいくと意外と気にならなくなりました。

**山崎：**生活造形学科って入学したときは変な名前だなと感じていましたが、コースに進んでからは「自分の生活をより良くするものを作っていけば良いのだ」と思えるようになりました。芸術的なすごいものを作らなければという思い込みというか重圧を感じなくなり少し楽になりました。

**藤澤：**美大も経験した立場としては、美大との差別化で「生活造形」と言っているのかなど、割と自然に受け入れていましたね。

**渡邊：**中にいると気付けないブランド力があるのかもしれませんが。それが伝統なので、時代に合わせて変化させながら教育を続け、文化が200、300年と続いていくために我々が築いていかなければならないと思います。若い人、とくに学生にも色々な意見を聞いてみたいです。学生の言葉の中に将来私たちがやらなければならないヒントが隠れていると思います。

# 1 3DCGツールを用いたファッションデザインのための ツール開発・作品制作③④（2022-2023年度）

牧野 昇  
メディア・映像研究室

村上剛規・加藤淳之介  
国際ファッション研究室

柚本 玲  
機能デザイン学研究室

本研究は、「文化・住環境学研究所 学内共同研究プロジェクト」として、《ファッション教育×デジタル技術の新たな可能性》を探ることを目的とした2018年からの継続研究である。これまで主に3DCADソフト「CLO」を用いて様々な衣服のデジタル再現の検証を行ってきた。

今回は、2022年度に発表した研究内容の継続のものとし、デジタルツールを活用することでのファッションデザインにおけるクリエイティビティの向上を狙いとして制作した3DCG衣装を、映像系の新たなデジタルツールを用いることによる最終的なアウトプットを制作したものとなっている。

デジタルならではの表現方法やリアルと交錯することによる新たな表現方法の可能性を探った。

## （制作プロセス① デザイン検討～着装シミュレーション）

最初に、国際ファッション文化学科の学生に協力を得て、フォトグラメトリックによる人体のスキャンを行った。このスキャンは立体造形工房でのスタジオ撮影で行われた。スキャンした

モデルは100万ポリゴン以上あり、アニメーション可能な3Dデータにするため、リデュースを行った。また、人物スキャンをした場合、左右非対称となり後工程に支障が出るため、左右対称に修正した。

次に、アバターのリギングについては、衣服のデザインをメインと考え、アニメーションできる最低限のリグとした。服のデザインは実現可能性よりもデザインの自由度や発想を重視した。学生にデザインを依頼し、そのデザインラフをもとに「Maya」でおおまかに形を作成、この画面キャプチャからデザインやパターン割を検討し、スカルプトツール等を使って修正を行った。ある程度、デザインが決まってきたら作成したラフな3Dモデルをobject形式で書き出し、CLOにアバター形式として読み込み、3Dペンを使用してパターンを作成した。その後、パターンの修正をし、デジタルデータでの縫製を行った。そして、3Dスキャンした人型のアバターを読み込み、着装シミュレーションを行い、結果を参考にしながら生地のも物理特性を設定した。今回の衣装の場合は「Rib\_2×2\_468GSM」を使用し、衣装の丸みは「シミュ



完成したムービーのスクリーンショット



オリジナルアバター用の3Dスキヤニング風景

レーション属性／圧力」で表現した。

**(制作プロセス② 服のディテール追加～ムービー完成)**

服に穴が開くデザインだったため、3D 基礎ペンを使用して下図を描いた。大きさ、位置、個数などを検討した後、3D ペンで曲線を描画し、「カット&縫い合わせ」で穴の部分を作成した。そして、各パターンを素材ごとに UV 空間に配置し、UDIM マップを作成した。カラーマップ用には実際の和服の生地サンプルを用意し、スタジオで写真撮影した。服の胴体部分については、織りの凸凹感を出すために、「substance 3D sampler」で normal マップを生成した。穴の透明部分や発光するパーツなどは「Maya」で設定した。

背景用の映像は本学の地下駐車場で撮影し、同時にモーションキャプチャも行った。使用したカメラ機材は「Sony α 7 III」、ジンバル「DJI Ronin」、キャプチャは「Perception Neuron 3」である。モーショントラッキング処理には「Nuke X」を使用し、3D カメラデータを FBX 形式で「Maya」にエクスポートした。これで撮影時のカメラの動きが 3D 空間内で再現される。モーションキャプチャデータをアバターにリターゲットし、歩行アニメーションを作成。衣服シミュレーションを行い、アバターのアニメーションを Alembic 形式で「CLO」にエクスポートし、服のアニメーションを CLO 側で

作成。ライティングはメインのエリアライトと背景動画に合わせた蛍光灯を設置し最終レンダリングはコンポジット用に AOV 出力した。映像編集は「After Effects」を使用して、レンダリングしたデータを AOV レイヤーごとに調整、グレーディングを行った。モーションブラーは「ReelSmart Motion Blur」プラグインを使用。最後にタイトルとクレジットを追加し、FHD で最終レンダリングを行い完成である。

**(まとめ)**

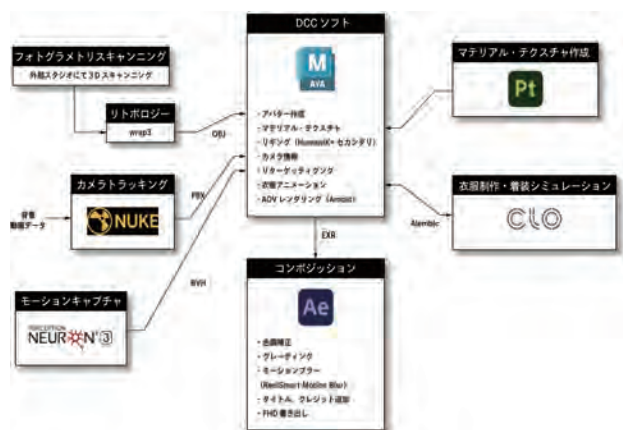
本研究による制作物は、リアルと異なる CG ならではの表現方法が可能な他、リアルと織り交ぜることによっても表現の幅を格段に広げることが可能とし、次世代のクリエイションにおける新たな方法の一つとして十分に有効なものであると感じた。

さらに、現在では AI 技術の急速な進化によって、新しい技術のデジタルツールも続々と出現してきており、その進化のスピードも今までになく非常に速いものになってきている。このデジタルツールの急速な進化は、各分野におけるクリエイションに多大な影響を与えることは間違いなく、いまデジタル革命の時代を迎えていると言える。

今後は AI のファッションデザインへのクリエイティブな活用の模索、ゲームエンジンを用いたリアルタイムファッション映像制作等の取り組みを検討している。



スキャンしたアバターを使って、Mayaでラフデザインを検討



全体の作業のワークフロー



## 2 アニメーション・ワークショップの実施環境と教材の研究 (2021-2022年度)

屋間行雄・荒井知恵  
メディア・映像研究室

### 1. 研究について

本研究は、小学校や社会教育施設でのアニメーション・ワークショップ実施におけるより良い環境作りや教材を開発することを目指し、主に子どもを対象としたワークショップの実施方法を調査、実践するもので、2019年度より継続して行っている。

2021、22年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス影響下での取組で、オンラインでのワークショップやネットを介して提供できる教材、コンテンツ制作が主であったが、感染対策を行いながらの対面ワークショップやイベントの実施が再開され、指導講師や登壇者として参加することができた。

また、「アニメテッドラーニングらぼ」(以下「Alljp」)との共同研究も継続して行った。(\*1) All.jpが主催するオンラインワークショップでのカリキュラム制作協力と教材制作、講師としての参加の他、フォーラムでの研究発表を行った。

### 2. 2021、2022年度の主な活動

#### 2-1) 外部のワークショップ、研究会等への参加

- ・2021/8/1「さわれるシネマ フィルムでアニメーションをつくってみよう 2021」(@川崎市市民ミュージアム / 川崎市生涯学習プラザ)
- ・2022/8/11「さわれるシネマ フィルムでアニメーションをつくってみよう 2022」(@川崎市市民ミュージアム / 川崎市生涯学習プラザ)
- ・2021/8/21「POST COVID-19 個人映像主義宣言」(@小金井 宮地楽器ホール)
- ・2021/8/22「前川千帆展関連ワークショップ 手の中で動き出す!ばらばらマンガをつくってみよう」(@千葉市美術館)
- ・2023/3/25-27「シネマわくわくワークショップ 映画のはじまりに挑戦!リュミエール映画+Vol.11」(@川崎市アートセンター)
- ・2021/9/25「大学美術教育学会(山形大会)」(@山形大学 / オンライン開催)
- ・2021/11/1-2022/1/29「いすゞタウン



図1.2 アニメーション教材(サンプル)制作風景



ワークショップカフェ」

- ・2022/3/1-31「NACT+JAA アニメーション・キャラバン おうちで簡単 アニメーションを作ろう!」(@六本木 国立新美術館)
- ・2022/3/26-28「シネマわくわくワークショップ 映画のはじまりに挑戦!リュミエール映画+Vol.10」(@川崎市アートセンター)

## 2-2) Alljp との共同研究

- ・2021/7/4「アニメテッドラーニング指導者向けリモート講習会くばらばらマンガで動詞を学ぶ>」
- ・2021/10/10、31、11/28、12/5「アニメテッドラーニング指導者向け講習会 2021 文字情報をアニメ化する」
- ・2021/12/12、19、28 アニメで考える、アニメで伝える、わたしたちのまちと未来 - 高校生と日本語学習者のアニメテッドラーニング -」
- ・2022/1/23「アニメテッドラーニング・フォーラム 2021」(Zoom)
- ・2022/7/31「アニメテッドラーニング指導者向けリモート講習会くばらばらマンガで漢字を学ぶ>」
- ・2022/8/30「アニメテッドラーニング指導者向けアドバンス講習会 vol.1」
- ・2022/12/27、29、2023/1/8、1/15「高

校生と日本語学習者のアニメテッドラーニング - アイディアをアニメで伝える」

- ・2023/3/5「アニメテッドラーニング指導者向けアドバンス講習会 vol.2」
- ・2023/3/5「アニメテッドラーニング・フォーラム 2022」(Zoom)

## 3. 今後の研究について

Alljp との共同研究は 2022 年度を以て区切りをつけた。しかし引き続き、指導者講習や教材の検証等で今後も協力をを行う予定である。外部団体や社会教育施設が企画した対面での子どもを対象としたワークショップへの参加や、他団体主催のワークショップ調査については引き続き行なっていきたい。

(\*1) Alljp は、デンマークで行われている「アニメテッドラーニング」を参考に、日本でさまざまな学習や社会活動で「アニメテッドラーニング」を展開するために設立された組織である。アニメーション制作を学習や対話のツールとして使い、身近な事柄やグローバルな課題を子どもたちが考えて話し合ったことをアニメーションで伝えようとする活動を行う。



図3.4「さわれるシネマ」WSの様子

# 3

## 戦後の建築・都市・生活環境を聞く／見る／書く

—戦後日本における建築文化の創造過程とその背景に関する研究—

(2021-2022年度)

種田元晴

建築・インテリア研究室

### はじめに

私たちの生活環境の多くは戦後に整えられた。とくに、豊かな生活文化の創造に建築家や建築技術者、建築評論家らが果たした役割は大きいと考えられる。彼らがその当時に、どのような想いや社会的背景を抱えて建築・都市空間を創造し、または批評したかを追求することは、これからの生活環境のあり方を模索する上での示唆に富むものと考えられる。

本研究は、戦後日本における建築文化の創造過程の状況を、主にその当事者への聞き取りにより把握し、考究することを試みるものである。成果は広く公開し、他者の糧となるよう配慮する。

とはいえ、2021-2年度はいまだコロナ禍中にあり、新規に対面でインタビューを行うのは困難な状況にあった。そこで、この2年間は過去にすでにインタビューを済ませておきながら編集が滞っていたものの作業を進めるとともに、今後のインタビューの糧となる文献の蒐集とその読考を行い、これらの作業・調査から得られた知見を文章化して、査読論文投稿、学会発表、ウェブメディア掲載、商業誌寄稿などにより発表することに注力した。

なお、コロナ禍も少しずつ日常に溶け込むものとなり、マスクが外れて行動制限も自由になった2023年度（本稿執筆時）は、上記の成果を踏まえて、再び新たな聞き取り活動のために全国を行脚することとなった。その具体的な成果は、次号の「しつらい」にて報告する。

### 2021年度の成果 | インタビューの公開作業に専念

戦後日本の建築文化・技術の発展に貢献された、あるいは、その様子を独自の視点から見つめてこられた、渡辺仁史氏（早大名誉教授／

建築計画へコンピュータシミュレーションを導入した先駆者としての研究遍歴を伺った）、岡田靖昌氏（東大前の蕎麦屋あさひや店主／夜中に丹下健三の研究室へ出前を届けたことなどの思い出などを聞き取った）、中田捷夫氏（構造家／世界の建築家のあらゆる造形を支えてきた事例と恩師・坪井善勝からの学びを語っていただいた）の3名のインタビュー音源の文字起こしを行った。

また、昨年度予算で文字起こしをした山口重之氏（京都工芸繊維大学名誉教授）のインタビュー（2018年4月18日実施／2021年10月15日公開）については記事として体裁を整え、日本建築学会が運営するウェブサイト「建築討論」に掲載した。山口氏は、建築設計の初期のスケッチ・基本計画段階にいかにかコンピュータを活用するかを先駆的に追究した研究者であり、やがて建築の維持管理に関心をもって今年度はこれにコンピュータを活用する方法を模索するなどの研究の遍歴をお話しいただいた。なお、同サイトには、小川信子氏（日本女子大学名誉教授 へのインタビュー 2019年12月28日実施／2021年5月15日公開）も掲載した。小川氏には、児童施設の設計や生活環境に関する研究を行うなかで出会った数多くの建築家・研究者たちとの交流エピソードを当時の時代背景を交えつつお話しいただいた。

### 2022年度の成果 | インタビューの公開作業と建築訪問記の執筆など

戦後日本の建築文化・技術の発展に関する文献調査を主に進め、査読論文2編（詩人・建築家の立原道造による建築設計案「或る果実店」の透視図に同時期に執筆された小説との関連が見出せることを論じたものと、文化服装学院円型校舎を含む円形建築の考案者・坂本鹿名夫によらない円型校舎の特質を論じたも

の)の投稿、学会発表1件(立原道造がデザインした椅子にまつわる妄想的論考)、および商業誌記事4件(詩人の家に関する特集が組まれた『建築ジャーナル』誌2022年5月号に寄稿した立原道造「ヒアシンスハウス」の評論文、『建築技術』誌2022年8月号に寄稿した国立近現代建築資料館で開催された『こどもの国』のデザイン展のレビュー、女性建築家の歴史に関する特集が組まれた『建築ジャーナル』誌2023年2月号に寄稿した小川信子氏へのインタビュー記事および奥村まこと設計「川井邸」訪問記)の執筆を行った。(詳細は巻末

「所員の主な活動一覧」ご参照)。

なお、商業記事4つのうちの3つは、実際に建築を訪ねて感じたこと考えたことを記したものである。今年度は前年度よりは幾分か外へ出やすくなったことが表れている。

また、前々年度・前年度予算で文字起こしを実施した中田捷夫氏のインタビュー(前掲)、両角光男氏(熊本大学名誉教授/建築設計教育および都市計画にコンピュータを援用した先駆者)のインタビューについて、記事として体裁を整え、日本建築学会が運営するウェブサイト「建築討論」に掲載・公開を果たした。



**中田捷夫 [1940-] “よろず屋”的構造家としての視点と直感**

話手：中田捷夫／聞き手：種田元晴・山田憲明・浜田英明・青井哲人・橋本純・砂川晴彦 [連載：建築と戦後]



**山口重之 [1944-] コンピュータ援用による建築デザイン生成をめざして | 建築情報学の源流・“CAD5”の思想を探る (1)**

話手：山口重之／聞き手：種田元晴・石井翔大・池上宗



**両角光男 [1946-] コンピュータ援用による建築設計教育の新しいかたちを求めて | 建築情報学の源流・“CAD5”の思想を探る (2)**

話手：両角光男／聞き手：種田元晴・池上宗樹・猪里孝



**小川信子 [1929-] 「生活環境の探求」の伴走者たち**

話手：小川信子／聞き手：種田元晴・石井翔大・橋本純・砂川晴彦 [連載：建築と戦後70年—08]



上記4つのインタビュー記事(建築討論|建築と戦後)は、こちらからご覧いただけます。

左、建築ジャーナル 2022年5号 | 特集 詩人の家  
右、建築ジャーナル 2023年2月号 | 特集 女性建築家の歴史

# 4

## 国宝重要文化財建造物における彩色技術と手法に関する研究 (2022年度)

鳥海 薫・大関 徹・七里真代 嘉松 聡  
造形・色彩学研究室 絵画研究室

森閑とした杉木立のなかにまばゆいばかりの  
壮麗な建造物が配された徳川家康の霊廟・日  
光東照宮。1999年に世界遺産に登録された  
「日光の二社」は、東照宮と二荒山神社、輪王  
寺の103棟の「建造物群」と、これら建造物  
群を取り巻く「遺跡（文化的景観）」である。  
文化財建造物としての価値を長く維持するた  
めには、適切かつ定期的な保存修理が欠かせ  
ない。そのため保存修理では、その価値を後  
世に伝えるための深い知識や技術、技能が必  
要となるが、その課題は多岐にわたる。今ま  
でも多くの研究が行われてきたが、伝承へ繋  
がる有益な結果は得られていないのが現状  
である。

そこで本研究では、長い時を経て受け継  
がれてきた多様な彩色技術や手法の伝承に焦  
点を当てて調査および研究を行うことにし  
た。

2022年度は、建造物の荘厳な彩色技術の  
伝承のためにどのような研究が必要なのかを  
把握するため、公益財団法人日光社寺文化財  
保存会の協力を得て、今後の研究方針を決  
定し、日光東照宮下神庫の本殿外装修理に  
伴い、装飾文様の色彩調査を行った。

### ・調査器械：

コニカミノルタ分光測色計 CM-700d

・撮影用カメラ：OLYMPUS E-MD1

江戸時代に建てられ、金箔が施された麒麟  
の彫刻、妻羽板に描かれた牡丹唐草図等の  
豪華な極彩色文様の色彩は基本7色とされ、  
青色系は群青・白群・舶来群青・藍、緑色  
系は緑青・白緑・草の汁、赤色系は水銀朱  
・鉛丹・臙脂・朱土、金色系は金箔・金泥  
、黄色系は金箔・金泥・黄土・藤黄、白色  
系は胡粉・鉛白・白土、黒色系は墨を使  
用する。文様には、絵の具で厚く盛り上  
げる置上彩色という技法等を用いる。伝統  
的な材料を使わなければ、伝統的な技術  
が失われてしまうため、古来の手法や材  
料にこだわって修理を行っている。「漆塗

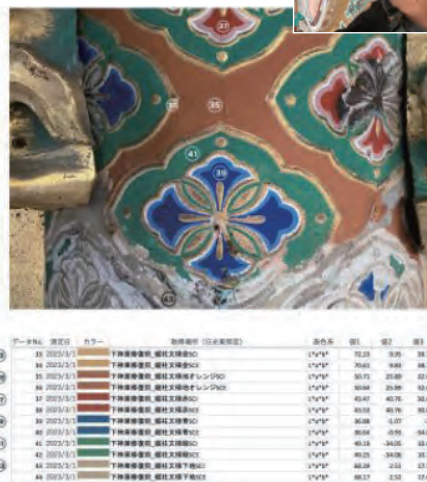
では劣化した漆塗膜を落とし、漆下地をつ  
け、最後に色漆を3回塗り重ねるなど、上  
げまでに約40工程にも及ぶ。日光の文化  
財建造物は、主に黒・赤・朱色の漆と金箔  
で仕上げられ、彫刻や彩色の下地にも漆が  
使われることで強度と美しさを保っている。  
これらの技術は、2020年に国連教育科学  
文化機構（ユネスコ）で「伝統建築工匠  
の技 木工建築を受け継ぐための伝統技  
術」として登録されている。

今後の具体的な研究方針として、1. 修復  
前に劣化した箇所と柱等で覆われた箇所  
の測色を比較し分析を行う。2. 手板を制  
作し、経年変化を追った色彩調査を行  
う。3. 霊獣や文様で使用されている色  
や意味について文献による調査を行う。

期待される成果として、色の経年変化を  
数値化し分析することで修復の一基準と  
なる伝承の一役割を担えることができ  
るであろう。また、日本の奥深い文化を  
探求することで日本の色彩美のルーツ  
を探る手掛かりとなり、色彩文化の理  
解と感性を高める授業構築への向上が  
期待できると考える。



下神庫外装を測色する様子



分光測色計での壁データ例

## 所員の主な活動一覧

### 荒井知恵

- ◆デザイン・造形学科 准教授 メディア・映像研究室
- ◆アニメーション表現、映像表現、アニメーション教育

#### 作品展示・上映

- 「調布メディアアートラボ アニメーションの世界へようこそ」、調布市文化会館たづくり8階 映像シアター（調布）2021年3月
- 「BOOK+」、MOTOYA Book Café Gallery（初台）2021年6月、2022年6月
- 「ムービー玉手箱」柳沢公民館視聴覚室（西東京市）2022年1月
- 「ばらばらマンガ喫茶展2022 -contact-」、coffee & gallery ぬいじう（新宿）、2022年9月
- 「カレンダー展」、coffee & gallery ぬいじう（新宿）、2021年11月、2022年11月

#### ワークショップ

- アニメテッドラーニング指導者向けリモート講習会「ばらばらマンガで動詞を学ぶ」、2021年7月
- 「手の中で動きだす!ばらばらマンガを作ってみよう」千葉市美術館2021年8月
- アニメテッドラーニングオンライン指導者向け講習会（全4回）2021年10月~12月
- アニメテッドラーニング 高校生日本語学習者オンラインWS、2021年12月
- アニメテッドラーニングオンライン指導者向け講習会「ばらばらマンガで漢字を学ぶ」2022年7月
- アニメテッドラーニング 高校生日本語学習者オンラインWS、2022年12月~2023年1月

#### コンテンツ制作

- NACT × JAA アニメーション・キャラバン2022 動画配信コンテンツ「アニメーション道!コマ撮りして遊ぼう!」
- いすゞ自動車ウェブサイト教材「エルフ・エルガ ばらばらマンガ」2022年3月

#### 研究発表

- 2021年度共同研究報告（昼間行雄・荒井知恵）「アニメーション・ワークショップの実施環境と教材の研究」、文化学園大学第55回学内研究発表会 造形学部の部、2022年9月
- 2022年度共同研究報告（昼間行雄・荒井知恵）「アニメーション・ワークショップの実施環境と教材の研究」、文化学園大学第56回学内研究発表会 造形学部の部、2023年9月

### 岩塚一恵

- ◆建築・インテリア学科 准教授 建築・インテリア研究室
- ◆地方創生、地域資源の活用、アート・プロジェクト

#### 作品発表

- 中之条ビエンナーレ国際現代芸術祭（群馬）、2021年

#### 出版物

- 中之条ビエンナーレ2021公式ガイドブック（作品掲載・分担執筆）、2021年
- NAKANOJO BIENNALE ART WORKS 2021（作品掲載・分担執筆）、2022年
- 農村舞台アートプロジェクト10周年記念誌、公益財団法人豊田市文化振興財団（作品掲載・分担執筆）、2022年
- 「地域への愛着がもたらすもの 地域芸術祭と住民が共創するコミュニティ」特集 アート・デザインがつなぐ多様性、文化・住環境学研究所報「しつらい」vol.8 特集記事、2022年3月

### 大関 徹

- ◆デザイン・造形学科 教授 造形・色彩学研究室
- ◆色彩学、色彩計画、カラーデザイン、カラートレンド、消費者動向と色彩研究

- ネットによるインターカラー会議にて日本市場での2023年春夏および秋冬

季の色彩傾向予測について発表、2021年5月・11月

- ネットによるインターカラー会議にて、2024年春夏季の日本市場色彩傾向予測について発表、2022年5月
- スペインバルセロナにて、インターカラー会議に参加。2024年秋冬季の日本市場色彩傾向予測について発表、2022年11月
- 文化・住環境学研究所共同研究「国宝重要文化財建造物における彩色技術と手法に関する研究」鳥海薫・大関徹・嘉松聡・七里真代、2022年3月（日光東照宮下神庫外装修理に伴い、(公財)日光社寺文化財保存会の協力を得て、装飾文様色彩調査）

### 遠藤 樹

- ◆デザイン・造形学科 助手 染織研究室
- ◆テキスタイル、織物、デザイン

#### 作品発表

- 第84回新制作展 スペースデザイン部門 ミニアチュール審査 入選、2021年9月
- 染織研究室研究作品展示 文化学園A館ウィンドウ、2021年12月
- 第36回文化学園大学・文化学園短期大学部 教員作品展、2021年12月
- 一般社団法人日本インテリア協会主催 The 5th NIF・YOUNG TEXTILE 2022、2022年10月
- 染織研究室研究作品展示 文化学園A館ウィンドウ、2022年12月
- 第37回文化学園大学 教員作品展、2022年12月

#### 研究発表

- 「織物に関する資料の情報項目に関する調査 ―情報のデジタル化と活用方法―」文化学園大学 学内研究発表会 造形学部系（第56回）、2022年9月

### 岡部隆信

- ◆デザイン・造形学科 教授 メディア・映像研究室
- ◆デジタルイラストレーション、3D、CG、メディア

#### 作品展示

- 第36回 文化学園大学・文化学園短期大学部教員研究作品展、「Seasonal City 2021」（3DCGで制作したイラストレーション作品）、2021年12月
- 第37回 文化学園大学教員研究作品展、「Seasonal City 2022」（3DCGで制作したイラストレーション作品）、2022年12月

### 岡本泰子

- ◆デザイン・造形学科 教授 染織研究室
- ◆染織、繊維造形、PC刺繍ミシンによる立体造形、サイエンティフィック・イラストレーション、動物デッサン

#### 作品発表

- 新制作協会SD部企画「ちょっと小さなスペースデザイン展」、建築会館ギャラリー（田町）、2021年3月
- テキスタイルアート・ミニチュール7 ―百花百宙―、Gallery5610（青山）、2021年6月
- 「JTCテキスタイルの未来形 in 宝塚2021」展、宝塚市立文化芸術センター、2021年3月
- 第84回 新制作展、国立新美術館、2021年9月・京都市京セラ美術館、10月
- 第36回文化学園大学・文化学園短期大学部教員研究作品展、2021年12月
- 教員研究・作品紹介「P R o F」（染織研究室研究作品展示）、文化学園A館ショーウィンドウ、2021年12月
- 「いきものつくし ものつくし」全12巻完結記念原画展、教文館（銀座）、2022年7月
- 第85回 新制作展、国立新美術館、2022年9月
- 第37回文化学園大学・教員研究作品展、2022年12月
- 教員研究・作品紹介「P R o F」（染織研究室研究作品展示）、文化学園

A館ショーウィンドウ、2022年12月

#### 著作・報告書

- 携帯可能な簡易織機の考案 ―オンライン授業での活用例― (研究ノート)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要 第52集 pp.64-70、2021年3月
- パプアニューギニアの編技法を応用した作品制作 (制作ノート)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要 第53集 pp.70-75、2022年3月
- 動物デッサンテクニック (韓国語版)、EJONG、2021年4月
- 「いきものつくしものつくし」第3巻「もよう」・第11巻「ほね」、福音館書店、2021年
- 「化石ハンター展」会場展示パネル用復元画および図録、国立科学博物館、2022年7月

#### 押山元子

- ◆デザイン・造形学科 教授 金工研究室
- ◆工芸、伝統工芸、ジュエリー

#### 作品発表

- 第47回山梨美術協会会員展 審査委員・山梨県立美術館、2020年2月
- Asia Week New York2020・Onishi Gallery、2020年3月
- 第60回東日本伝統工芸展・日本橋三越本店他、2020年4月
- 第83回山梨美術協会展 審査委員・山梨県立美術館、2020年7月
- 第67回日本伝統工芸展・日本橋三越本店他、2020年9月～2020年3月
- 第35回文化学園大学・文化学園短期大学部教員研究作品展、2020年12月
- Asia Week New York2020・Onishi Gallery、2021年3月
- 第61回東日本伝統工芸展・日本橋三越本店他、2021年4月
- 第68回日本伝統工芸展・日本橋三越本店他、2021年9月～2022年3月
- 第49回伝統工芸日本金工展・掛川市二の丸美術館、ギンザタナカ、2021年9月～11月
- 特別展金属工芸・安江金箔工芸館、2021年10月～12月
- 第1回フレアの会展・希香画廊2021年10月～11月
- 第36回文化学園大学教員研究作品展、2021年12月

#### 奥村誠一

- ◆建築・インテリア学科 准教授 建築・インテリア研究室
- ◆建築再生、建築設計、設計プロセス、建築構法

#### 作品

- 藤嶺学園藤沢翔陵高等学校 1号館増築・駐輪場、2021年4月

#### 著書

- 令和3年 インテリアプランナー更新講習テキスト、南一誠編 (分担執筆)、公益財団法人建築技術普及センター、2021年4月
- 令和4年 インテリアプランナー更新講習テキスト、南一誠編 (分担執筆)、公益財団法人建築技術普及センター、2022年4月
- 建築生産 (第三版)、松村秀一・権藤智之編 (分担執筆)、市ヶ谷出版社、2022年8月

#### 論文

- 奥村誠一・角田誠・青木茂「公共文化ホールの大規模改修における増築と耐震補強の設計手法 ―旧清瀬市民センターを事例として―」、文化学園大学紀要、第54集、pp.1-8、2023年3月 (査読付)

#### 研究発表

- BIMを活用した伝統構法木造の再生技術、日本建築学会学術講演梗概集E-1 建築計画、pp.421-pp.422、2021年9月
- 耐震補強をとまなう建築再生における設計プロセスの体系化に関する研究、2022年度文化学園大学 学内研究発表会、要旨集、研究分野紹介 no.2、pp.14-15、2022年9月

#### 報告書

- (仮称)山京津田沼ビル建築再生計画、基本構想・構造調査研究報告書、2022年2月

- パールハイム既存建物、違法調査研究報告書、2023年3月

#### 記事

- BIMを活用した伝統構法木造の再生技術、日本建築学会 建築雑誌、第136集、第1750号、p.35、2021年6月号

#### 共同研究

- 奥村誠一・趙晟恩・高橋正樹、東京クリスマスマーケット2022in日比谷公園ディスプレイアート、産学連携企画 (株式会社ビー・エフ・シー)、2022年12月

#### 学会活動

- 日本建築学会 建築計画委員会 各部構法計画小委員会、2018年～講演
- 東京都立大学 オープンユニバーシティ 生涯学習講座2041G003、特別講義、2021年
- 福岡大学 工学部 建築学科 建築キャリアデザイン 特別講義、2021年
- 国土交通大学校 計画管理部 建築科 建築計画 特別講義講師、2021年～
- 武蔵野美術大学大学院 造形研究科 デザイン専攻 建築コース 建築構法特論 非常勤講師、2021年～
- 武蔵野美術大学 造形学部 建築学科 建築構法 非常勤講師、2021年～
- ATAMI2030会議 中心市街地リノベーションまちづくり分科会、講演、2022年
- 東京工芸大学大学院 工学研究科 建築学専攻 木構造特論 非常勤講師、2022年
- 東京都立大学 都市環境学部 建築学科 建築デザインI 非常勤講師、設計演習、2022年

#### 角谷彩子

- ◆デザイン・造形学科 助教 染織研究室 (捺染室)
- ◆ファッションデザイン、染織、民俗芸能衣装

#### 査読付論文

- 岩手県花巻市「山伏神楽」翁衣装に関する調査・研究、服飾学研究、4(1)、pp.31-44、2022年2月

#### 研究発表

- 現地調査と科学分析に基づく「翁」衣装の研究―山伏神楽・番楽―、民俗芸能学会令和三年度大会、2021年11月
- 福島県相馬地方に残る野馬追に関わる旗指物制作と提案、共同発表、文化学園大学第56回学内研究発表会、2022年9月

#### 作品発表

- 第36回文化学園大学・文化学園短期大学部教員研究作品展、2021年12月
- 染織研究室研究作品展示、文化学園A館ウィンドウ、2021年12月
- 染織研究室研究作品展示、文化学園A館ウィンドウ、2022年12月

#### 研究活動

- 日本学術振興会科学研究費助成事業、基盤研究(C)、実地調査と科学分析に基づく民俗芸能衣装の研究―三信遠地方の翁―

#### 嘉松 聡

- ◆デザイン・造形学科 教授 絵画研究室
- ◆絵画表現、技法、材料、動植物図譜

#### 作品発表

- 第27回 時のかたち展・横浜赤レンガ倉庫 (横浜)、2021年5月
- 第36回 文化学園大学・文化学園短期大学部教員研究作品展、2021年12月
- 第28回 時のかたち展・横浜赤レンガ倉庫 (横浜)、2022年6月
- 嘉松聡展 ギャラリーセイコウドウ (銀座)、2022年8月
- 第37回 文化学園大学教員研究作品展、2022年12月

#### 研究活動 (共同研究)

- 文化・住環境学研究所共同研究「国宝重要文化財建造物における彩色技術と手法に関する研究」鳥海薫・大関徹・嘉松聡・七里真代、2022年3月 (日光東照宮下神庫外装修理に伴い、(公財)日光社寺文化財保存会の協

力を得て、装飾文様色彩調査)

**加茂幸子**

◆デザイン・造形学科 准教授 基礎造形研究室

◆立体造形、彫刻、テラコッタ、陶彫

**作品発表**

- 「Pocketable—小さな彫刻展—」+ノーション銀座、2021年6月
- 「第67回陶彫展」東京都美術館、2021年7月
- 「森の中の美術館XXII」中ノ沢美術館（前橋）、2021年9月
- 「動物たちの楽園」風花画廊（福島）、2021年10月
- 「YEAR-END EXABITIO of MINI-SCURUPTURES」ギャラリーせいほう（銀座）、2021年12月
- 「第36回教員作品展」文化学園大学、2021年12月
- 「首里城復興チャリティー 大シーサー展」ヒルトピアアートスクエア（新宿）、2022年4月
- 「第68回陶彫展」東京都美術館、2022年5月
- 「加茂幸子展—柔らかな国—」ギャラリーアートもりもと（銀座）、2022年5月
- 「物語にまつわるエトセラ」丸善日本橋店、2022年8月
- 「多面体」始弘画廊（青山）、2022年10月
- 「YEAR-END EXABITIO of MINI-SCURUPTURES」ギャラリーせいほう（銀座）、2022年12月
- 「第37回教員作品展」文化学園大学、2022年12月
- 「木・木・土・版」文化学園ウインドウギャラリー、2022年12月
- 「第1回日本陶彫会選抜展」ギャラリー青羅（銀座）、2023年2月
- 「加茂幸子展—手触りを掬う—」日本橋高島屋S.C. 美術工芸サロン、2023年3月

**北岡竜行**

◆デザイン・造形学科 准教授 絵画研究室

◆アートプロジェクト、ワークショップ、名古屋交流風、ペン画

**作品展示**

- 第36回文化学園大学・文化学園短期大学部教員作品展、2021年9月
- 第37回文化学園大学教員作品展、2022年11月
- アートプロジェクト、ワークショップ
- 「須坂古民家再生プロジェクト」、長野県須坂市、2022年8月

**黒沼麻帆**

◆デザイン・造形学科 助教 グラフィック・プロダクト研究室

◆デザイン、商品企画、ハンドワーク

**作品発表**

- 「文具雑貨の商品デザインと紙を用いた立体制作と加工実験について」2022年度 文化学園大学学内研究発表会 研究分野紹介 要旨集 pp.9-10、2022年
- 第37回文化学園大学教員研究作品展、2022年

**澤田志功**

◆デザイン・造形学科 教授 基礎造形研究室

◆彫刻（木彫）

**個展**

- 「時のカノン」、高島屋（日本橋）、2021年
- 「やそがみの匣」、阪急梅田ギャラリー（大阪）、2021年
- 「Lunar Eclipse」、画廊翠巒（群馬）、2022年
- 「時のカノン」、高島屋（新宿および大阪を巡回）、2022年

**団体展覧**

- 「第105回二科展」、会友賞受賞、国立新美術館（東京）、2021年
- 「METRO ART PASSAGE」、銀座メトロギャラリー（東京）、2021年
- 「第106回二科展」、会員推挙、国立新美術館（東京）、2022年
- 「METRO ART PASSAGE」、銀座メトロギャラリー（東京）、2022年
- 「Year-End Exhibition of Mini Sculptures」、ギャラリーせいほう（東

京）、2021年

- 「Year-End Exhibition of Mini Sculptures」、ギャラリーせいほう（東京）、2022年
- 「第36回文化学園大学教員研究作品展」、文化学園大学（東京）、2021年
- 「第37回文化学園大学教員研究作品展」、文化学園大学（東京）、2022年

**七里真代**

◆デザイン・造形学科 教授 造形・色彩学研究室

◆基礎デザイン、基礎造形

**作品発表**

- 第36回文化学園大学・文化学園短期大学部教員研究作品展、2021年12月
- 第13回大野城まどかびあ版画ビエンナーレ（福岡）、2022年6月
- 第1回FEI PURO ART AWARD（神奈川）、2022年9月
- 第37回文化学園大学教員研究作品展、2022年12月

**研究活動**

- 文化・住環境学研究所共同研究「国宝重要文化財建造物における彩色技術と手法に関する研究」鳥海薫・大関徹・嘉松聡・七里真代、2022年3月（日光東照宮下神庫外装修理に伴い、(公財)日光社寺文化財保存会の協力を得て、装飾文様色彩調査)

**白井 信**

◆デザイン・造形学科 教授 グラフィック・プロダクト研究室

◆グラフィックデザイン、アートプロジェクト

**作品発表**

- 第36回 文化学園大学・文化学園短期大学部教員研究作品展、2021年
- 第37回 文化学園大学教員研究作品展、2022年

**瀬藤貴史**

◆デザイン・造形学科 准教授 染織研究室

◆友禅、染色工芸、文化財保存

**作品発表**

- HAKU : The Art of Gold and Silver Leafing、SEIZAN Gallery New York、2022年4月
- SEIZAN Gallery at Art Market Hamptons 2022 (New York)、2022年7月
- 国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」旗指物制作（福島）、2022年7月
- 文化学園ウインドウ展、文化学園大学、2022年12月
- 第37回教員研究作品展文化学園大学、2022年12月
- SQUARE 染 textile 9展、Gallery HINOKI（京橋）、2023年3月

**講演**

- 公開学術講座「無形文化財と映像」における事例報告への登壇、独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所、2022年10月

**研究活動**

- キッズレザープログラム、日本皮革産業連合会、2022年

**研究発表**

- 福島県相馬地方に残る野馬追に関わる旗指物制作と提案、文化学園大学、2022年9月

**曾根里子**

◆建築・インテリア学科 准教授 建築・インテリア研究室

◆建築計画、住居計画、住居学、コミュニティ

**論文**

- 江川香奈・曾根里子・木村敦「集合住宅の高齢者の利用を考慮した共用施設の利用意図と必要性に関する調査研究」、日本インテリア学会論文報告集 33号 pp.37-41、2023年3月

**研究発表**



●江川香奈・曾根里子「同居者人数別にみた集合住宅の共用施設の利用想定に関する分析」、日本インテリア学会第33回大会研究発表梗概集、2020年10月

#### 研究活動

- 高齢者・障がい者の住まいと先進的取り組みに関する研究、日本建築学会高齢者・障がい者等居住小委員会 2021-2022年
- 曾根里子・江川香奈・染谷正弘「大規模マンションにおける共用空間の利用とコミュニティ活動の経年的変化に関する研究」、文化・住環境学研究所助成研究、2018年4月-2022年3月(継続)

#### 高橋正樹

◆建築・インテリア学科 教授 建築・インテリア研究室

◆環境心理、環境行動、環境行動デザイン

#### 学会発表

- 花田愛・高橋正樹・渡辺秀俊・浅田晴之「チームのホーム(拠点)にしたい」ワークプレイスの研究 その1、研究概要とインタビュー調査、日本建築学会大会梗概集、環境工学、No.40074、pp.169-170、2022年7月
- 高橋正樹・花田愛・渡辺秀俊・浅田晴之「チームのホーム(拠点)にしたい」ワークプレイスの研究 その2、チームの特徴とホームにしたい場所との関係、日本建築学会大会梗概集、環境工学、No.40075、pp.171-172、2022年7月
- 布田健・高橋正樹・他6名、バリアフリー効果の見える化手法に関する研究 その6 -評価ツールで用いる生活行動モデルの作成-、日本インテリア学会大会梗概集、pp.39-40、2021年10月
- 徳田良英・高橋正樹・他6名、バリアフリー効果の見える化手法に関する研究 その7 -評価ツールで用いる身体活動量と負担感の関係-、日本インテリア学会大会梗概集、pp.41-42、2021年10月
- 花田愛・渡辺秀俊・高橋正樹・浅田晴之「行きたくなる」ワークプレイスの研究 その1 研究概要及びアンケート調査、日本建築学会大会梗概集、環境工学、No.40046、pp.91-92、2021年9月
- 高橋正樹・花田愛・渡辺秀俊・浅田晴之「行きたくなる」ワークプレイスの研究 その2 インタビュー調査、日本建築学会大会梗概集、環境工学、No.40047、pp.91-92、2021年9月
- 杜安琪・高橋正樹、子どもの創造性を育む屋内型遊び場に関する研究、日本インテリア学会大会梗概集、pp.17-18、2021年10月

#### 共同研究

- 高橋正樹・奥村誠一・趙晟恩、株式会社B.F.C、東京クリスマスマーケット2022のヒュッテデザイン、東京クリスマスマーケット2022実行委員会、2022年9月~12月

#### 学会等関係

- (社)日本インテリア学会会員、(社)日本建築学会会員、(社)人間環境学会会員(継続)
- (社)日本建築学会環境工学本委員会環境心理生理運営委員会環境心理小委員会委員長、2021-2022年(継続)
- (社)日本インテリア学会論文報告集委員会委員(継続)
- (社)インテリア産業協会 各種委員会委員(継続)

#### 谷口久美子

◆建築・インテリア学科 教授 建築・インテリア研究室

◆住居学、住居計画、建築計画

#### 学内研究発表

「高齢者の身体状況の急変に伴う居住施設選択における課題一検討期間と住情報・居住環境の視点から」、2021年9月

#### 分担執筆

「住まいの百科事典」日本家政学会編、丸善出版、2021年4月

#### 種田元晴

◆建築・インテリア学科 准教授 建築・インテリア研究室

◆近現代日本建築史、建築評論、建築設計、立原道造研究、図学

#### 論文

●「立原道造『或る果実店』設計案に表現された現実性と物語性」、『日本建築学会計画系論文集』803号、pp.264-274、2023年1月(査読付)

●藤木竜也・種田元晴「円形校舎における形態の多様性—坂本鹿名夫と異なる建築家の円形校舎設計事例にみられる特質」、『日本建築学会計画系論文集』803号、pp.254-263、2023年1月(査読付)

#### 著書

●TMIBを愛する会編(分担執筆)「えっ! ホントに壊す!? 東京海上ビルディング—超高層ビルさえ消耗品にしてしまっている?」、建築ジャーナル、2022年2月

#### 研究発表

- 種田元晴・石井翔太、大江宏の屋根「ウォーナー博士像覆堂」と「日本武道館」設計案、2021年度日本建築学会大会学術講演梗概集、建築歴史・意匠、pp.209-210、2021年9月
- 歴史的事象としての建築CADの記録—戦後日本における建築文化の創造過程とその背景に関する研究、2021年度文化学園大学・文化学園大学短期大学部学内研究発表会(造形学部系)要旨集、pp.1-4、2021年9月
- 種田元晴・浅古陽介、ヘルムート・ヤコビの建築透視図表現に関する研究、2021年度日本図学会大会学術講演論文集、pp.71-76、2021年11月
- 建築家・立原道造が椅子に穿った十字穴の意味、2022年度日本建築学会大会学術講演梗概集、建築歴史・意匠、pp.9-10、2022年9月
- 瀬藤麻人・種田元晴、建築専門誌に掲載された建築家の博物館・美術館作品における言説と図面表現の関係に関する研究、2022年度日本図学会大会学術講演論文集、pp.71-74、2022年11月
- 井澤京香・種田元晴、甲州街道小原宿の空間構成要素を継承した道の駅の計画に関する研究、2022年度日本図学会大会学術講演論文集、pp.75-78、2022年11月
- 袁雯馨・種田元晴、サイバーバンクゲームに描かれた都市のイメージの構成要素—『ファイナルファンタジーVII リメイク』都市「ミッドガル」から、2022年度日本図学会大会学術講演論文集、pp.79-84、2022年11月

#### 作品発表

- 第24回法匠展、「似顔絵三大巨匠—コルビュジェ/ミース/ライト」(似顔絵)、エコギャラリー新宿、2021年9月21~26日
- 第25回法匠展、「戦後建築界の巨星墜つ—学術の内田祥哉と実務の池田武邦」(似顔絵)、エコギャラリー新宿、2022年9月20~25日

#### 記事

- 種田元晴・石井翔太・橋本純・砂川晴彦・正宗量子、小川信子氏インタビュー [1929-]「生活環境の探求」の伴走者たち、建築討論ウェブサイト(日本建築学会)、2021年5月
- クラブハウスで透視図談義—記録されない自由の獲得、同時代第4次第4号、pp.44-49(黒の会)、2021年9月
- 種田元晴・石井翔太・池上宗樹・猪里孝司・武田有左・長崎大典・仲隆介・松本裕司、山口重之氏インタビュー [1944-]コンピュータ援用による建築デザイン生成をめざして | 建築情報学の源流・“CAD5”の思想を探る (1)、建築討論ウェブサイト(日本建築学会)、2021年11月
- 建築行脚を詠う、黒の会手帖第14号、p.2(黒の会)、2021年11月
- 光永威彦・青井哲人・種田元晴・砂川晴彦、安藤紀雄氏インタビュー [1940-]「すべては建築設備の技術向上のため、建築討論ウェブサイト(日本建築学会)、2022年3月
- 戦後をオーラルヒストリーで掘り起こす「戦後と建築」、web連携 建築討論 Annex、建築雑誌1759号、p.48(日本建築学会)、2022年3月
- 堀辰雄と立原道造の建築的交流を想う、同時代第4次第5号、pp.66-75(黒の会)、2022年3月
- 大江宏が精魂込めた茨城の建築、黒の会手帖第16号、p.16(黒の会)、2022年4月
- 夢幻に満ちた無限の小空間—立原道造のヒアジンスハウス、建築ジャーナル1330号、pp.28-33(企業組合建築ジャーナル)、2022年5月
- 種田元晴・池上宗樹・猪里孝司・武田有左・長崎大典・位寄和久・村上祐治・本間里見、両角光男 [1946-]コンピュータ援用による建築設計教育の新しいかたちを求めて | 建築情報学の源流・“CAD5”の思想を探る (2)、建築討論ウェブサイト(日本建築学会)、2022年7月

- 代謝する遊びの里—「[こどもの国]のデザイン」展評、建築技術872号、pp.183（建築技術）、2022年8月
- コロナ格闘記、黒の会手帖第18号、pp.12-13（黒の会）、2022年9月
- 黒姫山麓の文芸家コロニイ、同時代第4次第6号、pp.81-88（黒の会）、2022年10月
- 語られる建築としてのヒアシンスハウス、風の詩第15号、p.1（ヒアシンスハウスの会）、2022年10月
- 住みかへの執心—『小さな家の思想 方丈記を建築で読み解く』を読んで、建築ジャーナル1336号、pp.6-7（企業組合建築ジャーナル）、2022年11月
- 種田元晴・山田憲明・浜田英明・青井哲人・橋本純・砂川晴彦、中田捷夫 [1940-] “よろず屋”の構造家としての視点と直感、建築討論ウェブサイト（日本建築学会）、2022年11月
- 女性建築家の肖像④ | 生活拠点としての空間 —小川信子の視点とその教え、建築ジャーナル1339号、pp.16-17（企業組合建築ジャーナル）、2023年2月
- 初心を継ぐ／接ぐ住まい —奥村まこと設計「川井邸」訪問記、建築ジャーナル1339号、pp.20-23（企業組合建築ジャーナル）、2023年2月
- 種田元晴・西川直子、インタビュー② | 正宗量子 | 台所が変わると、暮らしがかわる、建築ジャーナル1339号、pp.34-35（企業組合建築ジャーナル）、2023年2月
- 立原道造の二十歳 —培われた建築の表現、黒の会手帖第20号、p.8（黒の会）、2023年2月
- 招待講演・座長・司会等**
- 「大手人気企業4社人事担当者によるトークディスカッション」司会、総合資格学院主催、総合資格学院上野校、2021年6月16日
- 建築設計課題講習イベント「建築学緑祭2021～ROOKIE選」一次審査、審査員、総合資格学院主催、総合資格学院新宿校、2021年8月30日
- 堀辰雄文学記念館主催「堀辰雄を語る会 | 立原道造の建築と堀辰雄」、招待講演、堀辰雄文学記念館、2021年10月30日
- 日本図学会2021年度大会 セッション1、造形論・形態構成、座長、オンライン、2021年11月21日
- 法匠会（法政大学建築学科同窓会）主催「第2回 法匠祭」、ショートスピーチ司会、企画立案、Zoom、2021年11月23日
- 法匠会（法政大学建築学科同窓会）主催「小川格著『日本の近代建築ベスト50』出版記念シンポジウム「近代建築と市民」」、パネリスト、発起人、アルカディア市ヶ谷（Zoom併用）、2022年1月23日
- 日本建築学会近畿支部建築論部会若手小部会企画「書評会 岡本紀子著『立原道造 風景の建築』 | 書評4：建築図が語るもの—立原道造を取り巻く遠近の風景」、パネリスト、Zoom、2022年2月18日
- 日本建築学会情報システム技術委員会設計・生産の情報化小委員会主催「BIMの日2022シンポジウム | BIMから広がる新しい価値」第一部、建築情報学技術研究WG活動報告、Zoom、2022年2月22日
- 大江宏賞運営委員会主催「第18回 大江宏賞公開講評審査会」、司会進行、法政大学市ヶ谷田町キャンパス、2022年3月19日
- 日本建築学会関東支部茨城支所主催「建築文化講演会『大江宏を考える』 建築の魅力と今こそ再考すべき意義 ～茨城県知事公舎、ウォーナー博士像覆堂2つの県内作品を通して～」、招待講演、Zoom、2022年3月25日
- 杉並建築展2022「き「ざ」づ」きのきかけ」トークイベント、モデレーター、高架下空き倉庫、2022年3月27日
- 建築設計課題講習イベント「建築学緑祭2022～ROOKIE選」一次審査、審査員、総合資格学院主催、総合資格学院新宿校、2022年8月9日
- 「建築学緑祭2022 首都圏建築学生・活動発表会」司会、総合資格学院主催、工学院大学新宿アトリウム、2022年9月3日
- 日本建築学会大会（北海道）学術講演会 建築歴史・意匠部門 建築論：思想 第1司会、オンライン、2022年9月5日
- 日本図学会2022年度大会（阿寒湖温泉）セッション2：空間幾何学・造形教育・空間認識、座長、あかん湖 鶴雅ウイングス、2022年11月19日
- 法匠会（法政大学建築学科同窓会）主催「第3回 法匠祭」、ショートスピー

- チ、富永謙+堀越ふみ江講演会 司会、企画立案、Zoom、2022年11月23日
- 日本建築学会情報システム技術委員会設計・生産の情報化小委員会主催「BIMの日2023シンポジウム | BIMから広がる新しい価値」第一部、建築情報学技術研究WG活動報告、建築会館、2023年2月21日
- 杉並建築展2023「それぞれの環境」トークイベント、モデレーター、高架下空き倉庫、2022年2月26日
- 大江宏賞運営委員会主催「第19回 大江宏賞公開講評審査会」、司会進行、法政大学市ヶ谷田町キャンパス、2023年3月18日

### 趙 晟恩

- ◆建築・インテリア学科 准教授 建築・インテリア研究室
- ◆建築計画、こどもの環境、環境心理

#### 論文

- Sungeun Cho, Kazuhiko Nishide, Research on acceptance of child-rearing environment from the viewpoint of parent-child route selection and recognition of walking space in various urban environments in Japan, Journal of Asian Architecture and Building Engineering, <https://doi.org/10.1080/13467581.2021.1971996>, 2021年9月
- 森田薫平・渡邊朗子・趙晟恩、個人の知的活動を支援する空間デザインに関する研究 植栽と植栽の映像の2つの作業空間における情報処理活動への影響について、日本オフィス学会誌 Vol.14 No.2、2022年10月 学会発表
- 趙晟恩・渡邊朗子、小学生の保護者の視点から見た地域の遊び場における防犯意識に関する研究、日本建築学会大会梗概集、建築計画、No.2022、pp.203-204、2022年7月
- 後藤実珠佳・渡邊朗子・趙晟恩、個人の知的活動を向上させるパーテーションに関する研究 -透明度の差異が情報処理活動へ与える影響について-、日本建築学会大会梗概集、建築計画、No.2022、pp.627-628、2022年7月
- 柳川竜也・渡邊朗子・趙晟恩、高齢者のタブレット型ロボットとの会話による認知症予防と認知症対策 -回想法、音楽療法を用いた自宅の生活空間での対策の実現を目指して-、日本建築学会大会梗概集、情報システム技術、No.2022、pp.71-72、2022年7月
- 渡邊朗子、趙晟恩、インテリジェント・インフィルの構築と高齢者による評価、日本建築学会大会梗概集、建築計画、No.2021、pp.141-142、2021年7月
- 趙晟恩、渡邊朗子、LGBTの視点から見た公共トイレ空間に関する研究、日本建築学会大会梗概集、建築計画、No.2021、pp.623-624、2021年7月
- 森田薫平、渡邊朗子、趙晟恩、個人の知的活動を支援する空間デザインに関する研究 植栽と植栽の映像の2つの作業空間における情報処理活動への影響について、日本建築学会大会梗概集、情報システム技術、No.2021、pp.201-202、2021年7月

#### 共同研究

- 高橋正樹・奥村誠一・趙晟恩、株式会社B.F.C、東京クリスマスマーケット2022のヒュッテデザイン、東京クリスマスマーケット2022実行委員会、2022年9月～12月

#### 学会等関係

- (社)日本建築学会会員、(社)日本インテリア学会会員、(社)日本医療福祉建築協会会員（継続）

### 鳥海 薫

- ◆デザイン・造形学科 教授 造形・色彩学研究室
- ◆色彩学、色彩調和、色彩文化、流行色、水彩イラストレーション

#### 研究活動

- 文化・住環境学研究所共同研究「国宝重要文化財建造物における彩色技術と手法に関する研究」鳥海薫・大関徹・嘉松聡・七里真代、2022年3月（日光東照宮下神庫外装修理に伴い、(公財)日光社寺文化財保存会の協

力を得て、装飾文様色彩調査)

## 成井美穂

◆デザイン・造形学科 准教授 金工研究室

◆金属工芸、鍛金、彫金、文化財

### 作品発表

第36回文化学園大学・文化学園短期大学部教員作品展、2021年

第37回文化学園大学教員作品展、2022年

### 研究

科研費、基盤研究(C)「古代粒金技法の接合材を複製制作実験より解明する- 起源の復古と展開 -」共同研究

## 春田幸彦

◆デザイン・造形学科 教授 金工研究室

◆七宝、彫金、美術工芸、ジュエリー、オブジェ

### 作品発表

- 「エ×ニ Double Artisan」田口美術(岐阜)、2021年6月
- 「INSECTS2021展」銀座ギャラリーアートもりもと、2021年7月
- 「第54回日本七宝作家協会展」東京都美術館、2021年10月
- 「焼津カツオSHOWてん2021」焼津ターントクルこども館、2021年10月
- 「Link to art Medal project」銀座ギャラリーのばな、2021年10月
- 「第36回教員作品展 オンライン」文化学園大学、2021年12月
- 「INSECTS2022展」銀座ギャラリーアートもりもと、2022年7月
- 「第55回日本七宝作家協会国際展」東京都美術館、2022年10月
- 「北京国際現代琺瑯藝術展」中華世紀壇芸術館(北京)、2022年12月
- 「七宝町七宝焼生産者協同組合新作展」愛知県あま市七宝焼アートヴィレッジ、2022年12月
- 「第37回教員作品展 オンライン」文化学園大学、2022年12月

### 講演・特別講義

- 学内研究発表「アートによる地域活性イベント(焼津カツオSHOWてん)」一招待作家としての参加報告一、2021年9月
- トークショー「焼津カツオSHOWてん2021」焼津ターントクルこども館、2021年10月
- 審査員、講評会「金属アレルギーに優しいデザイン・アイデアコンテスト(EQBC2021)」新宿京王プラザホテル、2021年10月
- オンライン講演「北京国際現代エナメル芸術学術フォーラム“正しく守る・革新”」2022年6月
- 講演「ジャパン・ジュエリーフェアセミナー“有線七宝による現代アート表現”」国際フォーラム、2022年9月
- 特別客員教授 名古屋芸術大学デザイン領域メタル&ジュエリーデザインコース 2022年度

### メディア

- 季刊「炎芸術 No.146」「いきもの」造形最前線作品掲載、2021年8月
- ジュエリー専門誌JEWEL連載「七宝のアートジュエリーについて(Enamelling for contemporary art jewelry)」

### 作品収蔵

- オブジェ「残禍」静岡県焼津市役所、2021年10月
- オブジェ「護筆筭」焼津ターントクルこども館(焼津おもちゃ美術館)、2021年10月

## 久木章江

◆建築・インテリア学科 教授 建築・インテリア研究室

◆建築構造、構造安全、地震防災、環境振動

### 学会発表

- 松田航毅・久木章江、多拠点生活の出現とその将来展望 アドレスホッパーを対象としたヒアリング調査、日本建築学会大会学術講演梗概集(建築計画)、pp.933-936、2021年9月(発表した卒業生が若手優秀賞を受賞)
- 戸建住宅の施工過程に対する小学生高学年の認知度に関する調査 小学生5、6年生を対象としたアンケート調査、日本建築学会大会学術講演梗概集(建築教育)、pp.31-32、2021年9月

●松田航毅・久木章江、道の駅の賃貸住宅の構想 アドレスホッパーのための新たなビルディングタイプ、日本建築学会大会学術講演梗概集(建築デザイン)、pp.186-187、2021年9月

●石石拓未・久木章江、生物の環境適応能力から発展させる未来型都市、日本建築学会大会学術講演梗概集(建築デザイン)、pp.278-279、2021年9月

●ナダムバヤルマララ・久木章江、モンゴル都市部に暮らす定着遊牧民の住まいに関する研究 —その1 ウランバートル市のゲル地区における調査概要および住民の要望—、—その2 ゲル地区の住宅敷地内における要素分析—、日本建築学会大会学術講演梗概集(建築計画)、pp.933-936、2022年9月(発表した卒業生が若手優秀賞を受賞)

●石石拓未・久木章江、水中・水上を対象とした未来の都市・建築計画案に関する調査 —実施計画案およびコンペ公開案を対象とした分析—、日本建築学会大会学術講演梗概集(海洋建築)、pp.37-38、2022年9月

●藤田啓斗・久木章江、アフターコロナにおける仮設住宅の住要求に関する調査研究、地域安全学会梗概集、No.51、pp.2-32、2022年10月

## 昼間行雄

◆デザイン・造形学科 教授 メディア・映像研究室

◆映像演出、映像技術、教育普及

### 映像作品

- 「鏡像の視線」(短編劇映画)、2021年8月
- 「復讐の標的」(短編劇映画)、2021年12月
- 「彼岸—あの日を忘れないために—」(短編実験映画)、2022年9月
- 「屈光遊戯大戦」(短編実験映画)、2023年1月

### 展覧会出品

- 「POST COVID-19 個人映像主義宣言」で「捕身」(短編映画/2020)を上映、小金井 宮地楽器ホール、2021年8月
- 「VIDEO PARTY2022」で「視点×私点」(短編劇映画/2017)を上映、京都Lumen gallery、2022年3月

### 研究発表

- 「2021年度学内研究発表会」で2020年度の文化・住環境学研究所共同研究「アニメーション・ワークショップの実施環境と教材の研究」について発表、2021年9月
- 「アニメーターディング・フォーラム2021」(主催:一般社団法人アニメーターディングらば)で、文化・住環境学研究所共同研究について発表、2022年1月
- 「大学美術教育学会(山形大会)」オンラインシンポジウム「アニメーション・映像と教育」シンポジストとして登壇し、これまでの映像教育普及活動について講演を行なった、2021年9月
- 「ひろしまアニメーションズ シンポジウム」(広島市アステールプラザ)で、映像教育普及活動について講演を行なった、2022年8月
- 「アニメーターディング・フォーラム2022」(主催:一般社団法人アニメーターディングらば)で、オンラインによるワークショップについて発表、2023年3月

### ワークショップ

- 「さわれるシネマ フィルムでアニメーションをつくってみよう2021」、川崎市市民ミュージアム/川崎市生涯学習プラザ、2021年8月
- 「アニメーターディング指導者向け講習会2021 文字情報をアニメ化する」、zoomを使用したオンラインによるワークショップを4回実施、2021年10月~12月
- 「シネマわくわくワークショップ 映画のはじまりに挑戦!リュミエール映画+Vol.10」、川崎市アートセンター、2022年3月
- 「さわれるシネマ フィルムでアニメーションをつくってみよう2022」、川崎市市民ミュージアム/川崎市生涯学習プラザ、2022年8月
- 「アニメーターディング指導者向けアドバンス講習会 vol.1」、zoomを使用したオンラインによる動画映像の歴史と原理を体験するワークショップ、2022年8月
- 「アニメーターディング指導者向けアドバンス講習会 vol.2」、zoomを使用したオンラインによる映像の制作技術を向上させるワークショップ、2023年

3月

- 「シネマわくわくワークショップ 映画のはじまりに挑戦!リュミエール映画+Vol.11」川崎市アートセンター、2023年3月

### 深田雅子

- ◆デザイン・造形学科 助教 メディア・映像研究室
- ◆編集デザイン、民俗芸術、民俗学、来訪神

#### 論文

- 「オンデマンド映像教材を取り入れたデザインソフトスキルの習得—2021年度前期授業「デジタルメディア制作演習」の実施報告—」、2021年度文化学園大学・文化学園大学短期大学部学内研究発表会、2021年

#### 記事

- しつらい特集アート・デザインがつなぐ多様性「あそぶ、つくる、であう」、文化・住環境学研究所報「しつらい」vol.9、2022年3月、p.3-7
- 植物と魔除け⑤「アイヌの衣服に見る色、植物と魔除け」、フレグランスジャーナル社「aromatopia」168号、2021年10月25日発行、pp.31-35

### 藤澤英恵

- ◆デザイン・造形学科 助教 金工研究室
- ◆ジュエリー、彫金、ワックスモデリング、鉄彫刻、木彫刻

#### 作品発表

- 第36回文化学園大学・文化学園大学短期大学部教員研究作品展、2021年12月
- アルル。スペース展「みち」第2部、ギャラリーカフェアルル。(東京)、2021年8月
- 「第32回公募2022日本ジュエリー展」東京都美術館(東京)、2022年6月
- アルル。スペース展「みち」第2部、ギャラリーカフェアルル。(東京)、2022年8月
- 第37回文化学園大学教員研究作品展、2022年12月

#### 研究

- 2022年度文化ファッション研究機構若手教員研究、みつろうによる異素材モデリングのジュエリー作品への展開

### 牧野昇

- ◆デザイン・造形学科 准教授 メディア・映像研究室
- ◆エディトリアルデザイン、3DCG、VR・MR

#### 研究発表

- 牧野昇・村上剛毅・加藤淳之介・柚木玲、「3DCGを用いたファッションデザインのためのツール開発・作品制作③」、文化学園大学教員研究発表および要旨集、文化・住環境学研究所報、2021年
- 牧野昇・村上剛毅・加藤淳之介、「3DCGを用いたファッションデザインのためのツール開発・作品制作③」、文化学園大学教員研究発表および要旨集、文化・住環境学研究所報、2022年

#### ワークショップ

- 高橋正樹・井上揺子・佐藤百合子・牧野昇・渡邊裕子・伊藤丙雄、長野県須坂市における古民家再生プロジェクト「染織を遊ぶ =絞って染めて流行りのタイダイTシャツを作ろう!」

### 丸茂みゆき

- ◆建築・インテリア学科 教授 建築・インテリア研究室
- ◆インテリア計画、ライフスタイル、リフォーム、ディスプレイ

#### 作品

- 「光の壁2021」、第36回文化学園大学教員研究作品展、オンライン公開、2021年12月
- 「光の壁2022」、第37回文化学園大学教員研究作品展、オンライン公開、2022年12月

#### 審査および講評文

- 第38回住まいのリフォームコンクール審査、入賞作品講評文：国土交通大臣賞「千客万来庵～新しく懐かしい、床座と土間キッチン」、優秀賞：「広

間の教室がある家」「元気な2世帯住宅」、公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター、2021年10月

- 第1回メカモノ事例コンテスト審査、入賞作品講評文：「asm」、株式会社ニチベイ、2022年6月

- 第39回住まいのリフォームコンクール審査、入賞作品講評文：一般社団法人住宅瑕疵担保責任保険協会会長賞「世田谷オアシス -陽光を招くルーフバルコニーで癒しの家へ」、優秀賞：「スカイトレイン」「引戸の家」、公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター、2022年10月

- 第2回メカモノ事例コンテスト審査、入賞作品講評文：「おうちデザイン研究所」、株式会社ニチベイ、2022年12月

#### インタビュー

- 「とことん窓にこだわった光と風と人を感じる住まい」、インテリア実例コラム、株式会社ニチベイ、2023年1月

### 水谷奈央

- ◆デザイン・造形学科 助教 金工研究室
- ◆彫金、ジュエリー、オブジェ、美術工芸

#### 作品発表

- 「UR 社のジュエリー展」日本橋高島屋 6階美術画廊、2021年4月
- 「座れない椅子」+ノーション、2021年7月
- 「中国国際現代金属芸術展」中国、2021年7月
- 「10 Marvelous Jewelry Collection VII」ギャラリーおかりや、2021年7月
- 「Arte y Joya」マドリッド (Studio Squina)、パロセロナ (66 Mistral Gallery)、2021年10月
- 「UR 社のジュエリー展」日本橋高島屋 6階美術画廊、2022年7月
- 「水谷奈央展-sincerely-」日本橋高島屋アートアベニュー、2022年8月
- 「ACTIVATE KOGEI (工芸)+ART」展」松屋銀座、2022年10月
- 「THE BRICKS NYC HOLIDAY ART SHOW」NYC The Blue Gallery、2022年11月
- 「Best Wishes, contemporary jewelry + object」新宿高島屋 10階美術画廊、2022年12月

### 森田和子

- ◆デザイン・造形学科 助教 染織研究室
- ◆絞り染、型絵染、テキスタイルデザイン

#### 作品発表

- 着物「pride」入選、第75回新匠工芸会展、2021年10月
- 壁面展示作品「月はいいなあ」入選、第75回新匠工芸会展、2021年10月
- 着物「pride」、文化学園大学第36回教員研究作品展、2021年12月
- 立体展示作品「兔羽に」、アールスペース柚新春企画展「芸春千支 ART エト・アール [卯年]」展、2022年1月
- 壁面展示作品「THE CORN」、グループ展「千々の彩」展、2022年3月
- 着物「夕」、文化学園大学第37回教員研究作品展、2022年12月

### 山崎裕子

- ◆デザイン・造形学科 准教授 グラフィック・プロダクト研究室
- ◆デジタルデザイン、高齢者デザイン、地域デザイン

- NPO法人夢らくざプロジェクトお仕事なりきり道場、子供向けワークショップ「グラフィックデザイナー」、2020年10月

- いいやま学びの里コミュニティカレッジ第5回、第6回、第7回興信濃SDGsセミナーの運営、2021年5月、2022年1月、6月

### 山田拓矢

- ◆デザイン・造形学科 准教授 グラフィック・プロダクト研究室
- ◆グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、タイポグラフィ

#### 作品発表

- 第36回教員研究作品展、2021年
- 第37回教員研究作品展、2022年

#### 受賞

- 日本のアートディレクション（ADC）2020-2021 入選
- 日本のアートディレクション（ADC）2022 入選

#### 作品掲載

- Art Direction Japan 2020-2021（ADC年鑑）
- Art Direction Japan 2022（ADC年鑑）

#### 制作

- 2021 年度文化学園大学特別公開講座 告知グラフィック、2021 年
- 2022 年度文化学園大学特別公開講座 告知グラフィック、2022 年

#### 渡邊秀俊

◆建築・インテリア学科 教授 建築・インテリア研究室

◆人間工学、環境心理、環境行動デザイン

#### 学会発表

- 花田愛・高橋正樹・渡邊秀俊・浅田晴之「チームのホーム（拠点）にしたい」ワークプレイスの研究 その1、研究概要とインタビュー調査、日本建築学会大会梗概集、環境工学、No.40074、pp.169-170、2022年7月
- 高橋正樹・花田愛・渡邊秀俊・浅田晴之「チームのホーム（拠点）にしたい」ワークプレイスの研究 その2、チームの特徴とホームにしたい場所との関係、日本建築学会大会梗概集、環境工学、No.40075、pp.171-172、2022年7月
- 花田愛・渡邊秀俊・高橋正樹・浅田晴之「行きたくなる」ワークプレイスの研究 その1 研究概要及びアンケート調査、日本建築学会大会梗概集、環境工学、No.40046、pp.91-92、2021年9月
- 高橋正樹・花田愛・渡邊秀俊・浅田晴之「行きたくなる」ワークプレイスの研究 その2 インタビュー調査、日本建築学会大会梗概集、環境工学、No.40047、pp.91-92、2021年9月

#### 著書

- 消費生活アドバイザー資格 消費生活相談員資格 試験対策テキスト2021 生活知識II、分担執筆（住生活）、2021年4月
- 消費生活アドバイザー資格 消費生活相談員資格 試験対策テキスト2022 生活知識II、分担執筆（住生活）、一般財団法人日本産業協会、2022年4月
- インテリアコーディネーターハンドブック（統合版）上：第10版、pp.66-92、pp.137-140（分担執筆）、公益社団法人インテリア産業協会、2021年4月

#### 学会・協会等

- （社）日本インテリア学会会員、（社）日本建築学会会員、（社）人間環境学会会員、（社）日本人間工学会会員、（社）日本生理人類学会会員
- （社）日本インテリア学会 理事、論文審査委員長
- （社）インテリア産業協会 各種委員会委員
- （財）日本産業協会 各種委員会委員
- （財）住宅リフォーム・紛争処理支援センター 各種委員会委員
- （財）日本高等教育評価機構 評議員

#### 渡邊裕子

◆建築・インテリア学科 教授 建築・インテリア研究室

◆建築意匠、建築設計、古民家再生、ブラジル移民住宅調査

#### 査読付論文

田中和幸・渡邊裕子・須崎文代・内田青蔵・脇岡明美「ブラジル連邦共和国レジストロ植民地の日系移民住宅—深澤家住宅を対象として—」、日本建築学会技術報告集 第28巻 第68号、pp.488-493、2022年2月

#### 学会発表

田中和幸・渡邊裕子・須崎文代・内田青蔵・脇岡明美「ブラジル連邦共和国レジストロ市における戦前に竣工した日本人の移民住宅 その7 断面寸法から見る二階建て住宅の特徴について」、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.651-652、2021年9月

#### 文化・住環境学研究所助成研究

渡邊裕子・高橋正樹・牧野昇・北岡竜行・井上瑤子・佐藤百合子・伊藤丙雄・

本郷信二「長野県須坂市における古民家再生プロジェクトに関する研究」、2021年4月～2023年3月（2021・22年度は新型コロナウイルスの影響で実施できず）

修行の過程を示した言葉に「守・破・離」がある。利休の言であるらしい。

文化学園100周年、というわけで造形学部でも過去を振り返り、自分たちの「守る」べき原点は何か、それを知るための企画を行った。

わたしも本学に勤務して20年以上経つ。学部や学科、教育理念やカリキュラムなどについてそれなりに知ってはいる。しかし、それが「なぜ、そうなっているのか？」については「昔からそうだった」という一言で片付けてしまうことも多かった。

1966年、家政学部に生活造形学科が新設された。日本の家政学がエコノミー主体であったのに対し、文化の場合は「ハウス・オブ・アート」を理念に出発した。これは「使う人、着る人、住まう人など、人間を中心に、生活に利便性や豊かさを与えるさまざまなデザインについて理論と技術を学ぶ」ということであった。

技術や社会システムなどが急速に変化する今、学科編成や名称、授業内容など、時代に合わせて変化していくことが重要である。だが、「本」を忘れれば「形無し」となる。

「守るべき」伝統は何か、「破るべき」伝統は何か、「離れるべき」伝統は何か、今回の企画がそれを考えるきっかけとなると幸いです。

牧野 昇

カバーフォト



完成したムービーのスクリーンショット



本学開学初期の入学案内冊子



アニメーション教材(サンプル)制作風景

文化学園大学  
文化・住環境学研究所報

しつらい

vol.10 2024

発行日

2024年3月31日

編集委員

牧野 昇、曾根里子、種田元晴、深田雅子

デザイン

則武 弥 (ペーパーバック)

制作

左右社

発行所

文化学園大学 文化・住環境学研究所

151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1

TEL / FAX 03-3299-2384・2359 (建築・インテリア研究室)

印刷・製本

創栄図書印刷株式会社

© THE BUNKA RESEARCH LAB FOR

DWELLING ENVIRONMENT

無断転載を禁ず

# しつらい

## 10

文化学園大学 文化・住環境学研究所

しつらい vol.10 2024 発行日 2024年3月31日

発行者 文化・住環境学研究所 所長 高橋正樹

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1

発行所 文化学園大学 文化・住環境学研究所

ISSN 1880-7676